小森コーポレーショングループ
環境・社会報告書
2015

KOMORI
Kando：Beyond Expectations

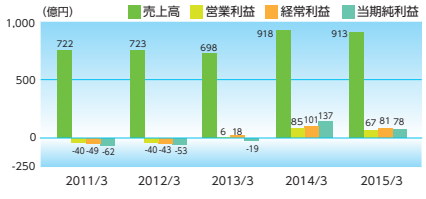
持続可能な社会を描く、顧客感動企業へ

小森コーポレーション(KOMORI)グループは、顧客感動企業を目指しています。
お客様に期待以上の満足をもたらすのはもちろん、その先にある人と人、社会、地球環境との調和(ハーモニー)を図り、持続可能な社会を実現すること。この目標を胸に、小森コーポレーションは世界へと動き出しています。

【会社概要と財務関連指標】

(2015年3月31日現在)

商　号　株式会社 小森コーポレーション
英文商号　KOMORI CORPORATION
本　社　〒130-8666　東京都墨田区吾妻橋 3 丁目 11 番 1 号
　　TEL.03-5608-7811(大代表)
創　業　1923 年(大正 12 年) 10 月 20 日
社　長　持田 訓
資本金　377 億 1,478 万円
従業員　2,106名(連結)
主要製品　商業用印刷機械(オフセット枚葉印刷機械、オフセット輪転印刷機械)、特殊印刷機械(紙幣、有価証券など)、紙器用輪転印刷機械、スクリーン印刷機械、印刷関連機器



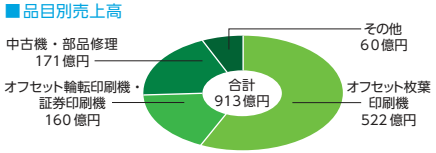
■事業拠点(国内)

●㈱小森コーポレーション事業所・工場：本社　テクノサービスセンター　西日本サービス　相模サービス　埼玉テクノセンター　小森グローバルパーツセンター　大阪支社　名古屋支店　静岡出張所　九州支店　北海道営業所　東北営業所　新潟出張所　北陸営業所　中国営業所　四国営業所　つくばプラント　小森グラフィックテクノロジーセンター
●子会社：㈱小森マシナリー　㈱小森興産　㈱小森エンジニアリング　㈱セリアコーポレーション　㈱セリアエンジニアリング

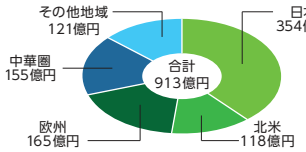
■事業拠点(海外：子会社支店含む)

●北米
Komori America Corporation　Komori Leasing Incorporated
●ヨーロッパ
Komori International(Europe) B.V.　Komori International Netherlands B.V.　Komori U.K. Limited　Komori Currency Technology　Komori France S.A.S.　Komori Belgium Branch Office of Komori France　Komori Italia S.r.l.　Komori-Chambon S.A.S.
●アジア
Komori Hong Kong Limited　Komori Printing Machine (Shenzhen) Co., Ltd.　Komori Printing Machine (Shenzhen) Co., Ltd. Shanghai Branch　Komori Taiwan Limited　Komori Machinery (Nantong) Co., Ltd.　Komori Southeast Asia Pte. Ltd.　Komori Malaysia Sdn. Bhd.

■品目別売上高



■地域別売上高



【INDEX】

会社概要と財務関連指標 …… 2P
ごあいさつ …… 3P

【経営理念】
経営理念と第Ⅳ期中期経営計画 …… 4P
KANDOプロジェクト …… 5P

【環境目標】
KOMORIエコビジョン2030／ …… 6P
環境基本方針／生物多様性宣言／
ISO14001 取得情報
環境活動状況 …… 7P
【環境戦略】
環境担当取締役ごあいさつ …… 8P
グリーンコンセプト …… 9P
エコファクトリー …… 10P
エコプロダクツ …… 13P
エココミュニケーション …… 14P
【環境報告】
KOMORIグループの環境負荷の全容 …… 16P
2014年度の環境パフォーマンス …… 17P
環境会計 …… 18P

【CSRマネジメント】
CSR 推進室長ごあいさつ …… 19P
【社会性報告】
人権の尊重／人の多様性／ …… 20P
労働安全衛生／コンプライアンス
お客様とともに …… 21P
株主・投資家様／社員とともに …… 22P
社会とともに …… 23P

編集方針

本報告書では、小森コーポレーションをKOMORI、小森コーポレーショングループをKOMORIグループで表記しています。KOMORIグループは、2007年度から社会性の報告を拡充させ、新たに「環境・社会報告書」として、CSRマネジメント、社会性報告、環境報告の構成でまとめています。また、一部の内容について、下記に記載する関係会社の活動も対象としています。さらに、2014年版より、ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用し、より多くの方にとって読みやすい報告書となるように改善しています。

報告対象範囲

㈱小森コーポレーションおよび国内・海外の連結対象グループ会社

報告対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
※本報告書は、環境省の環境報告ガイドライン2007年版およびGRI (Global Reporting Initiative)のサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン(2006年版)などの各種ガイドラインを参考に編集・作成しています。
※本報告書の内容は、当社ホームページからもご覧いただけます。
http://www.komori.com

事業構造変革を推進し、新規事業の早期収益化と営業の業態変革、モノづくり革新等を通して、収益構造変革を実行してまいります。

代表取締役社長兼最高執行責任者 (COO)
持田 訓

印刷産業は、ICT(情報通信技術)普及の影響を受け、先進国では紙媒体による印刷需要は総じて低調ですが、新興国では人口の増加や中間所得層の拡大に伴い印刷需要は伸びております。

このような市場環境の中、KOMORIグループは、オフセット印刷機事業においては、新製品を市場投入するとともに販促活動を実施し、需要喚起に努めました。また、新規事業では証券印刷機事業、PE(プリンテッド・エレクトロニクス)事業、DPS(デジタル印刷機)事業、PESP(プリント・エンジニアリング・サービス・プロバイダー)事業の強化対策を推進し「事業構造変革」、「営業の業態変革」に努めてまいりました。

オフセット印刷機事業では、H-UV(速乾装置)、KHS-AI(印刷の高生産性・高品質を支える印刷統合制御システム)、CMS(色調制御)を組み合わせた印刷システム(コモリ・オンデマンド)のソリューション提案を軸に、主力機(LITHRONE GL40・LITHRONE A37)の販促活動を展開しました。また、長期的に堅調な伸びが見込まれていますパッケージ印刷用として開発した印刷機(LITHRONE GX40およびLITHRONE GX40RP)の本格的に受注活動を開始いたしました。

新規事業については、証券印刷機事業では世界最大の民間証券印刷会社である英国のデ・ラ・ルー社からの受注など海外市場への積極的な展開を図ってまいりました。また、PE事業ではタッチパネルメタル配線用量産設備の本格的受注活動を開始し、東海ホールディングス株式会社(2015年4月1日から株式会社セリアコーポレーションに商号変更)の買収により販売・サービスを含めたトータルなサポートを可能とする体制を整え、事業化に大きく前進いたしました。DPS事業ではコニカミノルタ株式会社およびイスラエルのランダコーポレーションそれぞれと次世代デジタル印刷機の共同開発を推進してまいりました。PESP事業では、KGC(小森グラフィックテクノロジーセンター)をリニューアルオープンし、多様化する難易度の高い印刷ソフト技術のソリューションと、デジタル印刷機、印刷資材、消耗品、ポストプレス機器まで含めた最適な印刷システムのトータルソリューションの提案が可能となりました。

現在KOMORIグループでは、「第Ⅳ期中期経営計画」を2013年より強力に推進しております。さらに事業構造改革を推進し、新規事業の早期収益化と営業の業態改革、モノづくり革新等を通して、収益構造改革を実行してまいります。

具体的には、事業構造変革では、証券印刷機事業は英国のデ・ラ・ルー社との技術協力関係を軸に海外向け販売を拡大する体制の構築、PE事業は東海ホールディングス株式会社(現株式会社セリアコーポレーション)を核とする事業推進、DPS事業におけるインクジェット印刷機インプレミアIS29(コニカミノルタ株式会社と共同開発中)ならびにイスラエルのランダコーポレーションと共同開発中のナノグラフィ枚葉印刷機を順次市場投入し、早期事業化を図ってまいります。

営業の業態変革では、PESP事業として、お客様の生産性と収益性の向上に資するトータルなソリューションを提案するため、商品開発・販売・サービス体制の整備とアカウントマネジメントの展開により、国内・海外のお客様と永続的なパートナー関係を築き、さらなる安定的収益基盤の確保を目指してまいります。

収益構造変革では、コスト競争力強化のため、ICTを利用した業務効率の向上や販売管理費の削減を進める一方、モノづくり革新活動を推進し多品種変量生産に対応した最も効率の良い生産体制を構築し、生産リードタイム短縮と製造コスト低減を図ります。

これらの課題に経営資源を重点的に投入し全社一丸となって取り組むことで、持続的安定成長を実現する経営基盤を構築し、企業価値向上とともに優良企業への転換を図ってまいります。

2015年9月

経営理念と第Ⅳ期中期経営計画

■「顧客感動企業」の実現

KOMORIの経営理念は、高い「経営品質」による「顧客感動創造活動」を通じ、次の三項目を推進することです。

1. 「KOMORI」ブランドイメージの向上
2. 知覚品質管理の徹底
3. ソリューションビジネスの実施

この三項目により「顧客感動企業」を実現してまいります。

■私たちKOMORIグループが、すべきこと。

私たちKOMORIグループは、1923年の創業以来、社会文化を支える印刷機械づくりにまい進してまいりました。

21世紀を迎え、はや10年。社会情勢はもちろんのこと、印刷業界をはじめありとあらゆる環境が激しい勢いで変化を遂げるなか、今こそ私たちは心も新たに、一歩ずつ一歩ずつ、その歩みをさらに力強く重ねていかなくてはなりません。その道筋を照らす理念こそが、『顧客感動企業の実現』に他ならないのです。

常にお客様の声に耳を傾けること。お客様の視点に立ったきめ細やかなサービスを心がけること。そして、より良い解決策となる製品の数々と手法を提供すること。これらに真摯に取り組み、日々たゆまぬ努力を積み重ねてこそ、感動を与える企業としての真のブランド価値を勝ち得ると考えています。

これまで同様、これからも、お客様を起点とした「創造活動」を通じ、「顧客感動企業」への努力を重ねてまいります。

■第Ⅳ期中期経営計画（2014年3月期～2016年3月期）

2013年4月よりスタートいたしました「第Ⅳ期中期経営計画」では、「事業構造改革」「営業の業態改革」「収益構造改革」を強力に推進してまいります。

第Ⅳ期中期経営計画　2014年3月期～2016年3月期

「事業構造改革」	「営業の業態改革」	「モノづくり革新活動」
新規事業	PESP事業の推進	魅力ある商品作り
●証券印刷機事業の海外展開 ●デジタル印刷機事業 ●PE事業	●ソリューション営業	●コスト競争力の強化 ●開発力の強化

「収益構造改革」

収益性の向上

●ICTの活用
●SGA20
●人事制度改革

数値目標

売上高 1,000億円

売上高営業利益率 8％

持続的安定成長を実現する経営基盤を構築すること
企業価値の向上を図る/優良企業への転換

KANDOプロジェクト

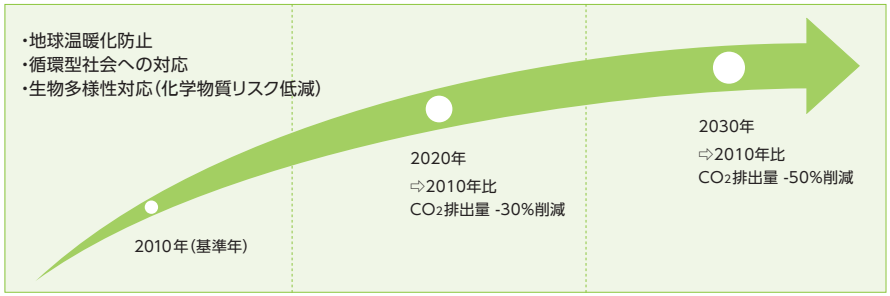
■KOMORI顧客感動創造プロジェクト（KANDOプロジェクト）

KOMORIは、社会文化を支える印刷技術・サービスを通じてお客様に感動を与え、共に社会課題の解決を目指していきます。これがKOMORIの"KANDOプロジェクト"です。

KOMORIエコビジョン2030／環境基本方針／生物多様性宣言／ISO14001取得情報

■KOMORIエコビジョン2030（長期目標）

KOMORIグループは、長期環境ビジョン「エコビジョン2030」を策定しました。このビジョンは、地球温暖化防止、循環型社会への対応、生物多様性を柱として、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たしていくために、方向を示したものです。



■環境基本方針

1. 企業活動のあらゆる面で、省エネルギー、資源の節約、再利用とリサイクルの推進、廃棄物の減量化等、継続的な改善に積極的に取り組みます。
2. 環境に優しい印刷機械とその周辺機器の開発を積極的に進めます。また、資材購入においても、より環境負荷の少ないグリーン調達を進めます。
3. 環境法規およびその他要求事項を遵守し、有害化学物質の削減を図り、環境汚染の予防に努めます。
4. 環境目的、目標を定め、定期的な見直しを行い、環境負荷の低減と改善を継続的に行います。
5. 本方針は文書化し、実行し、維持し、かつ、環境教育、啓蒙活動を通して、社員等に周知徹底し、自らが環境保全に積極的に取り組む意識を高めます。
6. 地域社会、お客様、関連企業とのコミュニケーションに努め、環境保全活動に積極的に貢献いたします。また、本方針は、一般の人々にも公開します。

■生物多様性宣言

●基本理念

KOMORIグループは、生物多様性が生み出す自然の恵みに感謝し生物多様性の保全に資する製品・技術の開発と普及を通じて持続可能な社会の形成に貢献してまいります。

●行動指針

1.森林資源（紙）、水、化石燃料（電力）の使用をできうる限り削減できる製品の開発に努め、生物多様性への影響を配慮いたします。

2.事業活動に伴う生物多様性への影響を認識し、及ぼす影響の低減に努めます。

3.お客様、サプライヤー、地域社会などステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、生物多様性を育む社会作りに貢献します。

4.社員の、生物多様性の重要性の理解を高め、生物多様性保全の意識の向上に努めていきます。

■ISO14001取得情報

登録事業所	株式会社　小森コーポレーション（つくばプラント）	株式会社　小森コーポレーション（テクノサービスセンター）	株式会社　小森マシナリー
適用規格	ISO 14001 :2004/JIS Q 14001 :2004	ISO 14001 :2004/JIS Q 14001 :2004	ISO 14001 :2004/JIS Q 14001 :2004
登録書番号	JQA-EM1949	JQA-EM3223	JQA-EM3213
登録日	2001年12月7日	2003年6月13日	2003年6月6日
認証機関名	一般財団法人　日本品質保証機構（JQA）	一般財団法人　日本品質保証機構（JQA）	一般財団法人　日本品質保証機構（JQA）

環境活動状況

■重点テーマと重要課題

KOMORIグループでは、環境行動計画を重点テーマと重要課題に分類して活動しています。重点テーマとしては、エコプロダクツ、エコファクトリー、エココミュニケーションの3つのエコ活動を掲げ、各テーマ毎に重要課題を設定しています。

「KOMORIエコビジョン2030」策定に伴い、来年度以降、意欲的な取り組みを行うべく現在見直しを進めています。

エコプロダクツ（開発）

お客様が求める環境製品・商品の開発を行うことで、販売機会の獲得とより一層の環境負荷低減を進めるとともに、製品関連法規制への対応を進めます。

エコファクトリー（調達・生産）

生産技術・製造方法の確立により、より一層の環境負荷低減を進めるとともに、生産関連法規への対応を進めます。

エココミュニケーション（物流・販売・サービス）

物流の効率改善・包装材削減により、より一層の環境負荷低減を図ります。また、サービスによる環境負荷低減に寄与する最適な製品・商品の考案、提供により、より多くのお客様に対して環境負荷の低減を進めます。

重点テーマ	重要課題		環境への貢献	製品・商品　他
エコプロダクツ	環境に配慮した製品の開発	商品の開発 製品の開発	【地球温暖化防止】 ・製品使用時の CO_2 削減 【化学物質リスク低減】 ・要求事項への対応	・枚葉機　：H-UV ・オフ輪機　：KHS-AI ：DC ブロワ ：ED モーター ：インキ使用量低減 ・VOC対応　：インキミスト除去装置 ：VOC 除去装置
		環境関連法規への対応	【環境全般】 ・環境法規制適合 ・Scope3 への対応	・環境規制への対応　：RoHS Ⅱ ：REACH　他
エコファクトリー	工場・事務所の環境負荷の低減	省エネ活動	【地球温暖化防止】 ・省エネ設備の推進	・工場　：無電極照明 ・事務所　：LED ：電子安定器 ・資源　：水、ガス、灯油　他
		省資源推進活動	【循環型社会への対応】 ・資源有効活用のための設備 ・ゼロエミッションへの確実な対応 ・リサイクル ・印刷資材の削減（紙など）	・廃棄物削減　：一般廃棄物 ：産業廃棄物
エココミュニケーション	物流・販売・サービスにおける環境負荷の低減	顧客密着型の環境要望対応	【地球温暖化防止】 ・お客様の既設機の省エネ化 ・印刷事業所の省エネ化 ・資源再利用	・印刷機械　：省エネサービス製品 ・工場　：省エネ照明　他 ・事務所　：クールビズ　他 ・サービス　：オイルクリーニング　他
		協力企業と連動した環境活動	【循環型社会への対応】 ・グリーン調達基準の推進	・サプライヤーとの連携 グリーン調達ガイドラインの展開

環境担当取締役ごあいさつ

地球温暖化、大気汚染、水質汚染、資源枯渇など私たちを取り巻く社会では多くの環境問題が発生していますが、そのほとんどは私たち自身の生活・経済活動が主な原因となっています。

印刷業界に向けた弊社の環境活動を振り返りますと、2011年の東日本大震災以降に急速に高まった消費電力削減への改善要求に対しまして、省エネルギー型製品の技術開発に注力してまいりました。

また、印刷現場における作業環境改善の要望も高くなり、インキミスト・VOC回収や臭気抑制等の要素技術開発にも取り組んでまいりました。

以上のように環境技術への対応を行ってまいりましたが、お客様をはじめとした社会全体に環境面でさらに貢献すべく、2013年に社内横断的な環境問題対応プロジェクト“Green−PJ”を立ち上げまして、環境配慮企業への変革を目指して新たな取り組みをスタートしました。

“Green−PJ”は環境配慮製品の創出はもちろんのこと、生産工場におきましても省エネ、省資源、生物多様性への取り組み、また、グリーン調達や化学物質管理などを通してのお取引様とのコミュニケーション機能の強化など、小森グループ全体における環境課題への取り組みを統括運営し、印刷業界における環境トップランナーとなるべく活動しています。

【顧客感動から社会感動へ】

当社は経営理念として“顧客感動企業の実現”を掲げ、全社組織の下“KANDO−PJ”活動を行っております。

“Green−PJ”はその一翼を担うプロジェクトであり、お客様である印刷会社様に寄与することはもちろんのこと、環境配慮の製品づくりや環境活動を通して広く社会貢献に寄与し、印刷物を手に取っていただく消費者の皆様、さらには地域社会や全てのステークホルダーの方々に感動していただき、環境に優しい社会を実現する言わば“社会感動”を目指すプロジェクトです。

現段階では、まだその目標の一歩を踏み出したばかりですが、本報告書をご閲覧いただきまして活動の成果である環境配慮型のトレンド技術や関連活動の取り組みについてご確認いただき、忌憚のないご意見、ご要望をお寄せいただければ幸いです。

取締役 兼常務執行役員
つくばプラント長 兼KGC管掌
斎藤 一徳

Green-PJ

印刷工場を取り巻く環境全てにアプローチ

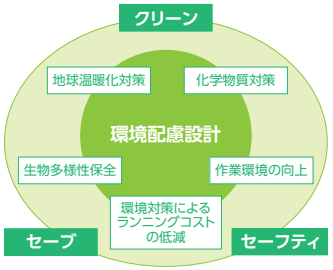
グリーンコンセプト

KOMORIが提唱する“グリーンコンセプト”

KOMORIでは、“GREEN(グリーン)”を、環境・人・自然などさまざまなものの共生を象徴するキーワードと位置づけています。《それぞれが共生することで、相互のバランスが保たれた穏やかで明るい未来を築くことができる》、それこそがKOMORIが提唱する“グリーンコンセプト”の考え方なのです。

グリーンコンセプトを支える3つの柱

グリーンコンセプトは「クリーン(汚染防止)」「セーブ(資源保護)」「セーフティ(安全)」の3つの柱の実現こそが、次代の印刷機にあるべきだと考えています。KOMORIは、常に、損紙の低減や作業環境の改善、省エネや騒音低減などを進化させながら、“環境と人と自然の共存”を目指して環境配慮型印刷機の開発に取り組んでいます。



クリーン(Clean):汚染防止	
印刷資材への対応	消耗品・油脂類の使用量削減など
工場環境への対応	室温上昇・パウダー飛散の抑制
セーブ(Save):資源保護	
エネルギーへの対応	消費電力の削減(CO_2排出量削減)
印刷ロスへの対応	印刷用紙・インキの使用量削減
セーフティ(Safety):安全	
働く人たちへの配慮	騒音や臭気の低減、無事故対策、危険溶剤対策など
予防保全への対応	自己診断機能の充実

環境配慮設計

印刷機は何の対策もしなければ紙、インキ等の資材や印刷機稼働に電気等のエネルギーを大量に使用し、地球環境に大きな負荷をもたらす工業製品です。

その中で印刷機における最大の環境配慮は、印刷製品を生産するにあたり“無駄を削減すること”です。

KOMORIでは、印刷工程における無駄の削減にとどまらず、ライフサイクル全体を通して、地球に優しい、人に優しい印刷機を目指し、製品開発・設計を行う取り組みを行っております。

①環境影響評価

製品設計にあたり環境に影響する項目を洗い出し、各項目で環境影響が最小となるように開発企画を行います。

②LCA(ライフサイクルアセスメント)

新規開発機において、製品本体はもちろんのこと部品調達・工程・輸送・使用段階にわたるライフサイクル全体に対し、LCAを実施、評価することにより、地球に優しい省エネルギー・省資源の印刷機の開発を実現します。

③印刷機稼働のフィードバック

印刷機は使用状態・稼働状況により消費する資源・エネルギーが大きく変わってきます。

お客様に納入され使用されている印刷機の稼働・使用状態を追跡調査し、長い期間においてお客様に良好な状態で使用していただける機械とするため設計にフィードバックし、より長期間安定して使える地球に優しい機械を開発します。

■グリーンプロジェクト組織図

エコファクトリー：つくばプラント／グローバルパーツセンター

つくばプラント 無電極照明

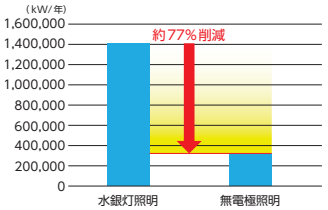
つくばプラントでは、従来よりエネルギーの効率的使用を把握するため、エネルギー監視装置により電力の「見える化」を行ってきました。デマンド値が設定を超えそうになるとアラームが鳴り、電力使用への対策がとれるようになっています。この「見える化」は先の東日本大震災時の電力統制時にも活用され、ピーク時の電力使用管理に貢献出来た実績を持っています。

エネルギー監視装置の目的は見える化による省電力ですので、省電力への取り組みは欠かせません。そこで、つくばプラント全体にかかわる取り組みの一つとして、今回、水銀灯照明に代わる省エネ工場照明である無電極照明を導入しました。無電極ランプは、ランプ本体の発光管内に電極がなく、低出力による高照度を実現させた付加価値の高い照明です。

交換後の実測値比較（従来の水銀灯ランプとの比較）では、消費電力量は約77%減と大幅な削減となりました。また、点灯性能も従来時間のかかっていた再点灯が即点灯となり、見え方についても影ができにくく、反射面の乱反射を抑えキズ等が見えやすいという効果も見られました。さらに、無電極ランプの寿命は水銀灯ランプの約5倍の約6万時間の光となっていますので、ランニングコストを大幅に削減することが可能です。

KOMORIつくばプラントはGreen-PJの母体として、工場における環境改善活動も推進しています。つくばプラントにお越しの際は、今回導入しました無電極照明を体感していただければと思います。

■年間使用電力量



グローバルパーツセンター（関宿）エリア照明の省エネ（LED照明・蛍光灯電子安定器・人感センサー）

関宿事業所内にあります小森グローバルパーツセンター（KPGC）は、国内のみならず海外への部品・資材等の供給を24時間体制で行っており、大物部品のほか小部品のピッキング作業等に適した照度が必要となってきます。

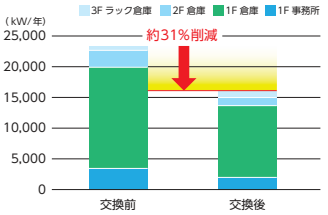
そのような環境の中で省エネに取り組みました。

一つめは事務所ならびに中小部品エリアの蛍光灯安定器を銅鉄式から電子式に交換しました。これにより消費電力約31%の低減効果が確認できました。

二つめは中大物部品エリアの人感センサー取付による点灯です。24時間稼働ですので真夜中での作業が発生することもありますがこの取り組みにより無駄な電気の使用がなくなったことと作業性の向上が図られました。

三つめは大物部品エリア照明のLED化です。以前は水銀灯ランプを使用していましたが消費電力の削減と照度の確保を目的として導入した結果、照度の確保が図られました。また、再点灯が即点灯となり、作業性の向上という効果も見られました。人感センサー・LEDの消費電力削減値は現在算出中ですが効果が出ていると感じています。

■電子安定器に交換による省エネ効果



エコファクトリー：KKM／KNT／KSC／KSE

KKM：小森マシナリー

KKM（小森マシナリー）は、山形県高畠町にあり、中・小型の印刷機械を製造しています。2003年に環境マネジメントシステムの認証を取得し、自社の環境負荷低減活動はもとより生物多様性に関連した「まほろばの里」の育成や近隣国道の清掃・花壇の整備、行政との意見交換など地域と密着した環境活動を推進してまいりました。

今回、自社の照明を省エネ照明に交換しましたのでご紹介いたします。

【工場内照明のLED化】

工場内の照明を水銀灯からLED照明にすることにより、80%の大幅な電力削減をすることができます。また、寿命も水銀灯と比較して、5倍もあり、2年間で交換が必要であったものが、10年間交換が不要になり、ランニングコストを大幅に削減することができます。

KOMORIは、つくばプラントで採用している無電極照明を含め、印刷工場に最適な省エネ照明を追求していきます。

KNT：小森机械（南通）有限公司

KNT（小森机械（南通）有限公司）は中国の江蘇省南通市にあり、KOMORIグループ製品の装置製造を行っています。

中国国内でも環境設備導入の意識が高まる中、KNTにおいても工場新設の際に省エネに対する照明への工夫がなされましたのでご紹介いたします。

【天窓の設置による自然光の取り入れ】

江蘇省南通市の気候は温暖で四季があり、年間の平均日照時間は日本の年間平均日照時間とほぼ同じです。

天井に設けた明り取り用の窓を随所に設けることにより、工場内に均一した自然光を取り入れることができます。その結果、昼間には、ほとんど照明が無くても十分に作業を行うことができる環境を整えることができました。

天窓の設置による照明省エネの効果に期待が持てます。

KSC：セリアコーポレーション／KSE：セリアエンジニアリング

2014年にプリンテッドエレクトロニクス市場で実績がありますスクリーン印刷機メーカーの株式会社セリアコーポレーション、株式会社セリアエンジニアリング（旧東海商事株式会社、旧東海精機株式会社）がKOMORIグループの一員となりました。事業化の前進に呼応した環境活動を推進してまいります。

エコファクトリー(オフィス):大阪支社

エコファクトリー(オフィス)へリニューアル

お客様の印刷事業所をエコファクトリー(オフィス)と想定してリニューアルしました大阪支社には、多くのお客様にお越しいただいております。照明機器の省エネ化や人感センサーなどによる省エネ効果をリアルタイム表示できるリアルタイムモニターを使用しての省エネ活動が定着されてきておりますので、その一例をご紹介いたします。

大阪支社

大型モニター(リアルタイムモニター)

照明機器の省エネ化

事務所、サービスフロアの蛍光灯を電子安定器に交換し、人の常駐しない部品倉庫、旧事務所を人感センサー付LEDと交換しました。

倉庫のLED照明(人感センサー付)

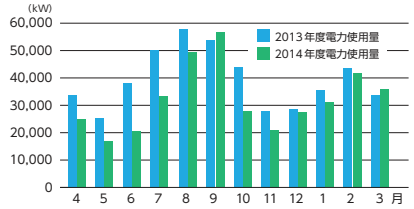
事務所の蛍光灯

階 数	場 所	照明機器数(台数)	交換前後の消費電力量(kW)			削 減 分	
			交換前		交換後	消費電力(kW)	削減率
3F	事 務 所	106	72	→	54	18	25%
3F	サービスフロア						
中 2F	部 品 倉 庫	22	10	→	2	8	80%
2F	図 面 倉 庫	23	9	→	6	3	33%
2F	旧 別 館	27	7	→	2	5	71%
合計		178	98	→	64	34	35%

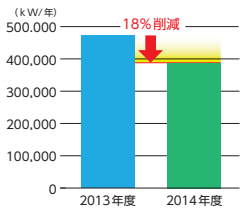
昨年比電力量

リアルタイムモニターのデータを基に省エネ活動をした結果、昨年比で年間18%の電力量を削減することができました。

■月別電力使用量

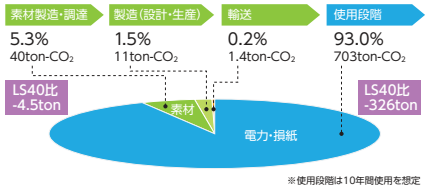


■年間電力使用量



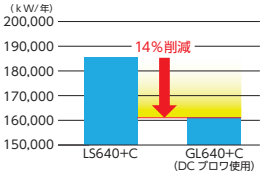
エコプロダクツ:環境に配慮した製品

枚葉印刷機LITHRONE GX/Gシリーズ

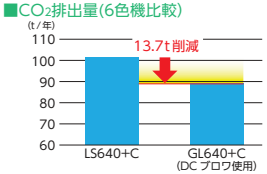


※使用段階は10年間使用を想定

■消費電力量(6色機比較)



■CO_2排出量(6色機比較)



LITHRONE GX/Gシリーズは当社前主力機LSシリーズからグリーンをコンセプトにーから見直し、より環境に配慮した製品として開発しました。

性能・耐久性はそのままに素材重量を4t、約9%の減量を行い製品本体としてのCO_2削減を達成しました。

また、使用段階においてもインバータモーターの採用、主要エア源のDCブロワ化を実施し消費電力14%削減を達成しました(6色機ベース)。

以上に加え、最も重点を置いたのが損紙低減です。

印刷機において損紙はそのまま収益の損失につながります。

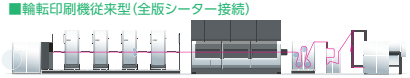
無駄を最小限に抑え、高精度プリセットを可能としたPDC-SX、KHS-AIなど最新技術を活用し、Gシリーズは従来シリーズに対して本刷りに入るまでの損紙を50%以上削減しお客様の損失を減らすとともに、消費電力の削減と合わせて使用時のCO_2排出量を年間約27%削減できる地球に優しい印刷機となっています。

また、GX/GシリーズはP(反転機)、RP(ワンパス両面機)などの多彩なバリエーションを準備しておりますので、お客様のニーズに合わせてより効率の良い印刷製品の生産が可能な環境対応型印刷機になっています。

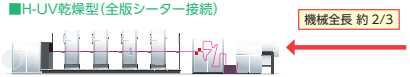
※数値は機種・仕様等により変動します。

輪転印刷機H-UV仕様

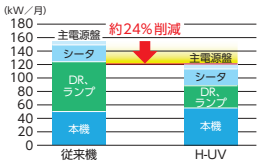
■輪転印刷機従来型(全版シーター接続)



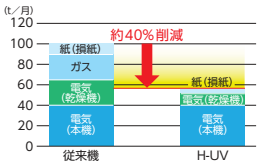
■H-UV乾燥型(全版シーター接続)



■消費電力量(両面4色機比較)



■CO_2排出量(両面4色機比較)



オフ輪H-UVは、全く新しい環境負荷低減装置として開発された次世代のオフ輪システムです。

《開発コンセプト》

①枚葉機と同等の印刷品質の実現

②究極の立上げ損紙低減の実現

③消費エネルギーの最小化の実現

《主な特徴》

■伸縮(火じわ)の発生を防止

・熱風ドライヤーを使用しないため用紙内の水分量は変化せず、伸縮(火じわ)の発生もなく、枚葉機と同等の高い印刷品質への対応が可能。

■立上げ損紙を劇的に削減

・KHS-AI(損紙低減システム)、AI-Link(統合制御システム)の自動制御技術との相乗効果により、立上げ損紙を50%以上削減することが可能。

■オフ輪H-UV印刷の環境対応技術

①電力量の大幅な削減(熱風ドライヤー不要)

②CO_2排出量の大幅な削減(ガス不要、省電力、損紙削減)

③VOCゼロ(揮発性有機化合物排出なし)

④省スペース(ガス設備不要、熱風ドライヤー不要、冷却装置不要)

・電力量は、熱風ドライヤーをUV乾燥システムに置き換えることにより、20%以上の削減が可能。CO_2排出量も、約40%の削減が可能となります。

・VOCは、UVインキの使用により、基本的に排出量をゼロにすることが可能。また、小型のH-UV装置への置き換えにより、大型設備からの転換が可能となります。

エココミュニケーション：環境に配慮したカスタマー製品

H–UV

独自のノウハウで開発したUVランプと高感度UVインキを用いた革新的な乾燥システムです。通常のUV乾燥システムと比べCO_2排出量は約1/4。オゾンレスかつ低発熱なため、エアダクト等の空調設備も不要。消耗品のランプ交換も含めたランニングコストを低減することができます。

ランプ自体の発熱量が少ないため、用紙の熱変形も抑えられます。イニシャルコストを大幅に抑えることができます。

リアルタイム稼働モニター

他の電力監視装置とは異なり機械の『今の状態が分かる』『今の電力料金が分かる』『今のロス・ムダが分かる』装置です。

機械の使用電力・稼働状況だけではなく、状態が分かることで点検や予防保全の目安にもなります。また、印刷機械に限らず、附帯機器、周辺機器、施設全体の設備にも設置できます。

EDモーター

超高効率と小型化を実現した経済的で環境にもやさしい新しいドライブシステムです。

既設印刷機の従来式誘導電動型モーターをEDモーターに交換することで、約21%の消費電力の削減ができます（モーターの種類や環境などにより数値が異なる場合があります）。

LED自然光照明

自然光に近似した分光分布のLEDランプを使用することにより、理想的な印刷物の色校正を実現した照明です。

消費電力も大幅に削減できます。従来の蛍光灯と比較し、約68%（当社比）削減されます。ランニングコストも従来の蛍光灯と比較し、約28%（当社比）安価です。

エコファクトリー　・エコオフィス

枚葉機

オフ輪機

DCブロアー

風量静圧特性を効率よく得ながら、高回転・高効率と小型軽量化を実現した経済的で環境にもやさしい新しいブロアーです。

既設印刷機の従来式誘導電動型ブロアーをDCブロアーに交換することで、約45%の消費電力の削減と設置スペースの縮小を実現します（ブロアーの種類や環境などにより数値が異なる場合があります）。

無電極ランプ

無電極ランプは、高い天井の工場や倉庫に使われている水銀灯に代わる省エネ型の照明です。約77%の使用電力を削減できます（当社つくばプラント実績）。

また、長寿命のため、ランニングコストを大幅に削減できます。影ができにくく、まぶしさを抑えて目に優しく、高演色の明るい空間を創り出せるので、印刷工場には最適な照明です。

水舟特殊断熱コーティング

高密度スチロールを専用の接着剤でふきつけることにより密着性を高め、水舟外面に確実に定着させることで内部結露を軽減します。また、特殊断熱コーティングすることにより、より高い断熱性と耐久性を確保できます。さらに、防水加工をすることで、結露が発生しにくい構造となっています。耐久性が上がり、張り替えの頻度が大幅に軽減されます。

湿し水管理装置

①純水化装置

印刷障害の原因となる不純物を取り除き純水を作り出す装置です。

品質安定化を図ることができ、水のスケール化を減少させ、ローラー洗浄や巻替えなどの回数を削減します。

②湿し水ろ過装置

湿し水を高性能フィルターにより循環ろ過する装置です。不純物を循環ろ過し、印刷品質を向上させます。同じ湿し水を繰り返し長時間使用でき、IPA消費量も削減できます。

ブランケット洗浄装置

洗浄布に予め洗浄液を含ませた新たなタイプの洗浄装置です。

効果：洗浄ムラによる洗浄不良、液飛、液ダレによる印刷障害やメンテナンス負担などを解消できます。ノズルのメンテナンス、洗浄液と水の管理が不要になります。洗浄時間の大幅な削減が実現でき、洗浄1回当たりの使用布の長さも削減できます。低臭で低VOC洗浄剤を使用し環境にやさしい製品です。

蛍光灯電子安定器

既設の蛍光灯用安定器を交換することによって大幅な消費電力削減と蛍光灯の長寿命化が図れます。

鉄心式安定器+FLR蛍光灯と比較して約43%削減、蛍光灯の寿命が約2倍になります（機器の種類や環境により数値が異なる場合があります）。

KOMORIグループの環境負荷の全容

KOMORIグループでは、印刷機の製造・販売から流通、リサイクルにいたるまで、
環境負荷低減に向けた幅広い取り組みを行っています。2014年度のグループ全体での環境負荷については、
私たちは以下のように把握しています。今後も、さらなる環境効率の向上に向けて取り組みを加速していきます。

INPUT

エネルギー投入量

電力量	33,397,088 kWh
燃量（原油換算）	2,602 kl

水資源投入量

146,249 m³

紙使用量

印刷テスト用紙	バージン	653 トン
コピー紙	再生紙	14 トン

印刷副資材

インキ	4.6 トン
版	4.4 トン
湿し水	1.0 kl
溶剤	0.1 kl

PRTR届出化学物質投入量

トルエン	6.0 kl
キシレン	0.3 kl
その他	2.2 kl

部品・材料

鋳物・鋼材	18,023 トン
その他	489 トン

取扱説明書・パーツリスト

紙	6.5 トン

燃料

508 kl

サービス修理部品

5.0 トン

研究・開発 / 調達 / 製造 / 物流 / 回収・再資源化

OUTPUT

温室効果ガス

CO_2排出量	21,966 t-CO_2

大気汚染物質

NO_x	2.8 トン
SO_x	1.5 トン

水資源排出量

98,354 m³

PRTR届出化学物質排出量・移動量

8.5 トン

再資源化量

廃テスト用紙・段ボール	1,143.9 トン
廃油・廃液	374.1 トン
金属屑	1,388.4 トン
廃プラスティック	69.9 トン
その他	188.0 トン

生産台数

オフセット印刷機	580 台
スクリーン印刷機	186 台
合計	766 台

温室効果ガス

CO_2排出量	1,305 t-CO_2

サービス修理部品

5.0 トン

※KOMORIグループ内の製造工程および、製品の物流における環境負荷です。昨年とは集計範囲が異なります。

2014年度の環境パフォーマンス

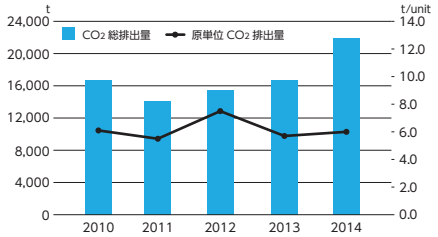
私たちは印刷機メーカーとして、「省エネルギー推進活動」「廃棄物の削減とリサイクル活動」「有害物質の適正管理」の3点について重点的に取り組みを推進しています。また、省資源推進活動としての「印刷テスト用紙の使用量削減」や、グリーン調達も積極的に進めています。より具体的な取り組みについては、KOMORI WEBサイトをご覧ください。

CO_2 排出量の削減の取り組み

2013年度は、前年度比41.5%の生産量の増産により8.3%増加しましたが、原単位は24%下がり、つくばプラント統合後、最も低い原単位の排出量となりました。

2014年度は、SERIAグループと海外拠点を集計範囲に入れたため排出量は31%上昇しましたが、原単位では5%の増加となりました。KOMORIグループは、さらに来年度に向けて、省エネ化に努めていきます。

■CO_2排出量の推移

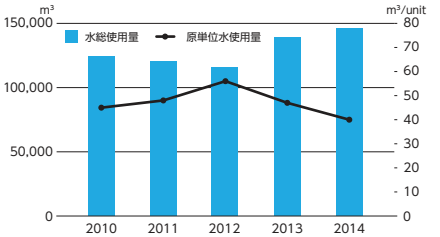


水使用量の削減の取り組み

2013年度は、前年度比41.5%の生産量の増産により20.9%増加しましたが、原単位の水量は16%減少しています。

2014年度は、SERIAグループと海外拠点を集計範囲に入れたため水量は5%上昇しましたが、原単位での水量は15%減少しています。引き続き使用量の削減を進めていきます。

■水使用量の推移

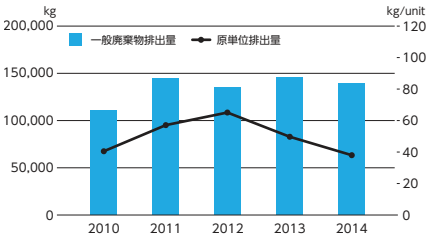


廃棄物排出量の削減の取り組み

2013年度は、排出量に比較して、搬送機材の治具化や梱包材の再利用化などを進めて排出量の低減に取り組み、2012年度より、年々効果を上げてきています。

2014年度は、SERIAグループと海外拠点を集計範囲に入れましたが、削減効果が上回り4.8%減少しました。引き続き排出量の削減を進めていきます。

■一般廃棄物排出量の推移



グリーン調達

KOMORIは、製造・販売する全ての製品が安全で、環境負荷の小さい地球環境にやさしい製品でありたいと考えています。そのために“小森グリーン調達基準ガイドライン”を設け、各化学物質法規を遵守し、生物多様性保全への取り組み、お客様の健康と地球環境に配慮した製品づくりを目指しています。

化学物質の管理

化学物質の適正な管理と削減の達成に向けて継続的に取り組んでいます。

欧州のREACH規制では、化学物質の登録や製品に含有する高懸念物質の情報提供などが求められています。REACH規制をはじめとする化学物質規制に対応するため、製品に含まれる化学物質を把握し、適切に管理するためのシステムの構築ならびにルールを設定し、協力企業様のご協力を得ながら運用しています。

また、欧州のRoHS指令の対象物質・範囲の拡大など、化学物質の適正な管理と削減は欧州だけではなくその他の国、地域で類似の法規制が整備されつつあります。KOMORIでは規制の適用範囲などを見極めながら計画的に対応を進めています。

環境会計

環境会計

環境会計は、環境保全に対する取り組みの投資効果や費用対効果を確認し、環境保全のための効果的な資源配分を行い、KOMORIグループの環境への取り組みを皆様にお知らせするためのものです。

●環境保全コスト

2014年度の環境保全に関する投資額は、6,400万円となりました。これは、つくばプラントの照明を水銀灯から省エネ型無電極照明に変更したことによるものです。費用額は、1億6,550万円となり、前年度比1,130万円減少となりました。この費用には、減価償却費は含めておりません。

集計方法:
(1)期間は2014年4月1日から2015年3月31日までです。
(2)環境保全コストの集計範囲は、ISO取得のつくばプラント、サービス技術本部、㈱小森マシナリーです。
(3)環境省環境会計ガイドライン(2005年版)を参考に集計しています。
(4)費用額に減価償却費は含めていません。管理活動コスト・研究開発コストには人件費を含んでいます。

≫環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	主な取組の内容	2013年度		2014年度		前年度比	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
【1】事業エリア内コスト	①公害防止コスト(廃棄物の排出削減)	—	28.7	—	9.1	—	31.6%
	②地球環境保全コスト(省エネルギー設備の運転、整備)	—	0.6	64.0	1.9	—	318.2%
	③資源循環コスト(産業/一般廃棄物の処理)	—	20.7	—	20.9	—	101.1%
【2】上・下流コスト	①環境物品の調達購入 ②購入品納品方法改善での部品梱包材	—	11.2	—	9.6	—	85.7%
【3】管理活動コスト	①環境マネジメントシステム構築・維持 ②環境対策組織人件費 など	—	12.6	—	13.2	—	104.0%
【4】研究開発コスト	①環境配慮型製品の開発 ②環境保全装置等の開発	—	96.1	—	103.5	—	107.7%
【5】社会活動コスト	①地域美化活動、景観などの環境改善	—	6.9	—	7.4	—	107.4%
【6】環境損傷対応コスト	①環境保全に関する損害賠償	—	—	—	—	—	—
合計		—	176.8	64.0	165.6	—	93.7%

当該期間の設備投資額(連結)	21億1,600万円
当該期間の研究開発費の総額	51億2,300万円
【1】の③に係る有価物等の売却益	3,417万円

●環境保全効果

総エネルギー投入量、水資源投入量、廃棄物排出量が増加しているのは、今年からSERIAグループおよび海外拠点を集計範囲に加えたためです。また、CO_2排出量もエネルギー量の増加に伴って増えていますが、増加比率が高くなっているのは、電気事業のCO_2排出係数が高くなっているためです。

≫環境保全効果

効果の内容	項目	2013年度①	2014年度②	②−①	前年度比(%)
事業活動に投入する資源に関する効果	総エネルギー投入量(GJ)	340,350	419,087	78,737	123.13
	水資源投入量(m^3)	139,340	146,249	6,909	104.96
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	CO_2排出量(t-CO_2)	16,750	21,966	5,216	131.14
	Sox排出量(t)	2	2	0	100.00
	Nox排出量(t)	3	3	0	100.00
	ばいじん排出量(t)	0	0	0	0.00
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	4	7	3	162.50
	廃棄物排出量(t)	2,702	3,339	637	123.58
	廃棄物埋立量(t)	1	1	0	100.00

CSR推進室長ごあいさつ

2015年3月16日付で執行役員 情報システム本部長 兼情報システム部長 兼CSR推進室長 望月昌教が担当することになりました。

当社のCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)の位置付けは、「これからの企業は、社会に対する責任を果たしながら、企業価値の増大や、利益の創出を図っていくようにしなければならない」という考えです。CSR活動は広範囲にわたりますので、当社ではその範囲を

- コーポレート・ガバナンス
- コンプライアンス
- 内部統制(リスクマネジメント・内部統制基準・内部監査体制)
- 地球環境保全
- 情報
- 人間重視
- 社会への貢献
- 製品・技術・サービス

と位置付けていますが、最も基本的なCSRは、「安全で安心して使える品質の良い商品と、質の高いサービスをお客様に提供する」ことであると考えております。

当社が事業活動を進めていく上での最優先事項には二つあります。一つは「法律を守る」ということです。つまりコンプライアンス(法令順守)を果たすことが基本です。また法律では定められていなくても必要と判断した事項に対して自主的に取り組むことも重要です。二つめは「安全、健康」です。お客様や当社の従業員、協力企業の方々の安全は最も優先することです。この上に立ってこそ当社の経営理念である「顧客感動企業」をはじめて実現できるものと考えております。

当社の環境活動の取り組みとしては、開発、生産などの事業活動において、環境負荷を低減し、地球環境との調和を図り、また、お客様がより少ない電力量や損紙の低減によって効率が良く、質の高い印刷物を生産できるよう環境にやさしい商品作りに取り組んでいます。

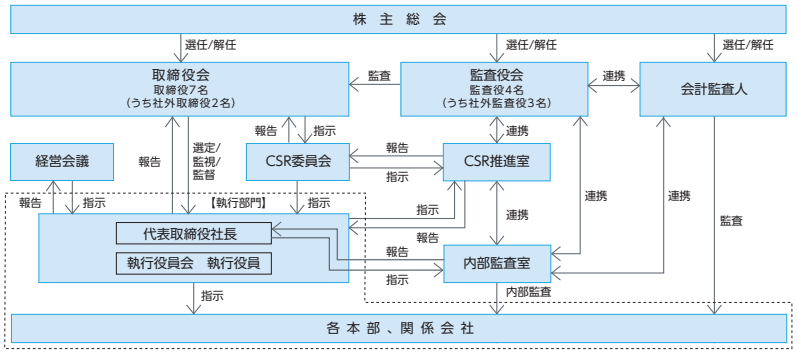
また、ライフサイクル全般にわたってトータルな環境負荷低減を目指して、LCAの取り組みを行いCO_2削減に貢献する考えです。

執行役員 情報システム本部長
兼情報システム部長 兼CSR推進室長
望月 昌教

コーポレート・ガバナンス

当社の事業構造は、印刷機械の製造・販売に特化しており、監査役会設置会社方式を採用しています。

2015年6月24日現在、取締役会は7名の取締役(社外取締役は2名)からなり、原則毎月1回取締役会を開催し、経営の意思決定機関として法定事項および経営の基本方針とその他重要事項を決定するとともに、取締役の業務執行を監督しています。また、執行役員は10名からなり、取締役会で決定された経営方針等を周知し、単年度の会社業績の達成と企業価値向上に向けて執行を確実なものとします。監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成されており、重要な会議に出席し、取締役の業務執行を監視しています。



人権の尊重／人の多様性／労働安全衛生／コンプライアンス

KOMORIグループは、社会との感動の共有を目指します。

人権の尊重

KOMORIでは、2006年に「KOMORIグループ企業行動憲章」と「KOMORIグループ社員行動基準」を制定しました。これらは、国内のみならず各国・地域の法令を順守するとともに、国際規範に基づく普遍的人権を尊重することを基本とし、事業に関わる全ての人の人格と個性の尊重、差別を行わない旨を明記しています。また、KOMORIグループ企業行動憲章は7か国語に翻訳し、国内外のグループ社員の人権意識の向上に努めています。

人の多様性

KOMORIでは、「KOMORIグループ企業行動憲章」で多様な人々が最大限の能力を発揮し、一人ひとりが安全で健康的かつやりがい・生きがいを感じ、いきいきと働くことができる職場環境の維持向上に努める旨を明記しています。

育児支援については、育児支援制度が活用されています。取得率は9割以上となっており、育児時短も活用されています。また、介護支援制度も活用されています。

障害者雇用については、雇用後の障害者の仕事支援のため、JOBコーチ制度や就職後の職場定着支援（障害者雇用支援センター）を活用し、業務や会社生活などの個別支援をしています。

労働安全衛生

KOMORIでは、「安全と健康」はすべての基本とのポリシーに基づき、グループ一丸となって災害のない安全・安心な職場づくりに努めています。

各社、各拠点がそれぞれ環境安全衛生推進計画に沿った安全衛生活動に取り組んでおり、各拠点の特性を踏まえた職場の安全衛生パトロールや安全衛生委員会などの基本活動の一層の充実とともに、ヒヤリハット（リスク）など職場に潜む災害ならびに通勤・業務上使用する車両災害の低減活動・教育を進め、リスクの低減と安全衛生管理水準の向上に向けた活動を各職場が取り組んでいます。

コンプライアンス

KOMORIでは、国内外のグループ企業におけるコンプライアンスに関する意識や知識を深めるとともに、より一層の徹底、定着を図ってまいります。

■コンプライアンス推進体制

KOMORIでは、「KOMORIグループ企業行動憲章」の制定と徹底、社内規則の整備、監査、内部通報制度により不適切な行動の早期発見と是正を行い、事業の健全性を高めています。

■「KOMORIグループ企業行動憲章」制定と周知徹底

KOMORIでは、グループ共通の具体的行動規範として「KOMORIグループ企業行動憲章」を制定し、国内はもとより国外の拠点につきましても現地語に翻訳し展開をしております。さらに、国内外の経営層から「KOMORIグループ企業行動憲章」を遵守することの誓約書を提出してもらっています。

■コンプライアンス教育の実施

KOMORIでは、企業倫理と法令順守が事業活動と企業理念を達成する基本の一つと考えており、国内グループ企業の役職員を含む全従業員に対してコンプライアンス教育を行い、コンプライアンス意識の一層の浸透を図っています。

■国内外の公務員等への贈収賄防止の取り組み

KOMORIでは、今後グローバルなコンプライアンスが重要であるとの認識のもと、取締役会において、贈収賄の防止に断固とした姿勢で臨むことを決意表明しています。

■内部通報制度

KOMORIでは、違法・不適切な行為の防止と早期発見、自浄能力の向上を図るため、CSR推進室長を窓口とした「内部通報制度」を導入しています。

お客様とともに

KOMORIカレンダー2015年版

第25回小森会

KGCリニューアルオープン

dCLセミナー

予防保全セミナー（担当から説明を受けるお客様）

■お客様とともに

私たちは、全世界のお客様のニーズに適合した安全かつ良質な製品・技術・サービスの提供により、お客様の満足と信頼を獲得する一方、芸術、文化、コミュニケーションの促進に貢献していきます。

KOMORIカレンダー2015年版

2015年のカレンダーは、昨年に引き続き「FLAWLESS BEAUTY（完璧な美）」をテーマとしたシリーズの第2弾です。リスロンの高付加価値印刷により、被写体の本来の美しさをより一層完璧な美の表現に昇華しています。コーターグロスによる甲虫のリアルな光沢感や、エンボスニスやマットニスによる蝶の羽のソフトさやしっとり感など、質感の差による立体感を重視した作品となっています。

第25回小森会開催

第25回小森会世話人総会が4月16日、東京ドームホテルで開催されました。小森会役員、全国8ブロックの世話人や企画委員など189名の出席のもと、総会、KOMORI基調報告、講演会、懇親パーティーが行われました。総会の挨拶では、浅野健小森会会長（（株）金羊社社長）より講演会のテーマである「イノベーション」について、多様化が進む印刷業界においてイノベーションを起こす役割が求められている旨の提起がなされ、基調報告では、KOMORI会長の小森善治から「印刷会社の課題とKOMORIが提供するソリューション」、「KOMORIの事業活動状況」について説明されました。講演会では、「創業経営者の後継者に聞く それぞれのSHINKA」をテーマに、松岡祐司様（（株）アサプリ社長）がインタビューアーとなり、パネルディスカッションが行われ、活発な情報交換の輪が会場に広がっていました。

KGC（KOMORI Graphic Technology Center）リニューアルオープン

近年、印刷業界を取り巻く経営環境は大きく変貌しています。そこでKOMORIでは、お客様の立場から印刷機械の品質ならびに生産性の向上はもとより、トータルな印刷システムのソリューションを具現化するために、KGC（KOMORI Graphic Technology Center）をリニューアルオープンしました。

KGCは“お客様の課題解決の場としてのKGC”、“新たなビジネスや付加価値を生み出す場としてのKGC”をコンセプトに、さまざまなソリューションを提供する場として刷新しました。<オフセット+デジタル+ワークフロー+K-Supply商品（印刷資材・印刷機材）>という総合的な印刷システムを通して、KOMORIの事業戦略や企業活動を体感していただきながら、“印刷業界の未来をお客様と共創する場”にしていきたいと思います。

dCL（デジタルクリエイティブラウンジ）でデジタルセミナーを定期的に開催

KOMORIでは、本社2階のdCL（デジタルクリエイティブラウンジ）において、デジタル印刷機やビジネスモデルに関するセミナーを定期的に開催し好評を博しています。2015年2月・3月の内覧会ではビジネスモデルの一つのご提案として「ブライダルビジネス」をテーマに、ウェディング向けの印刷物をデジタル印刷機Impremia C100およびC71と周辺機器の組み合わせによる実演を通して、ブライダルビジネスの可能性を提案しました。実演後は、新製品の性能やビジネスへの活用について活発な質疑応答が行われました。

また、大阪支社デモセンターにもdCLを新たに開設しましたので、西日本のお客様は、本社まで足を運ばずともご覧いただけます。

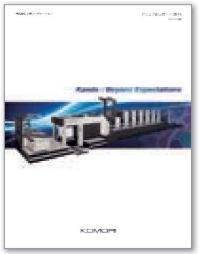
印刷機械の予防保全セミナー

ご好評をいただいております「KOMORI予防保全セミナー」を2014年も各地で開催し、多くの方に参加していただきました。今後も、お客様（経営者様+現場オペレータ様）+KOMORIの『三人四脚』によりますKPM（KOMORI式予防保全）を通して、お客様のお役に立ってまいりたいと思います。

また、弊社発行のOnPRESSではKPM（KOMORI式予防保全）の成功事例の記事とともに、<予防保全の大切さ>というコラムも併せて掲載しておりますので啓蒙・教育等にご活用いただければと思います。

株主・投資家様／社員とともに

IRサイト


アニュアルレポート

Tsukuba技能育成道場

コンプライアンス教育

■株主・投資家様とともに

私たちは、株主・投資家の皆様に適時、公平、正確な企業情報を継続して開示し、双方向のコミュニケーションを図りながら、より良い信頼関係の構築を目指していきます。

IRイベントの実施

年2回、期末・中間決算発表後にアナリスト・機関投資家の皆様を対象とした説明会を開催しています。毎回50名程度の皆様にご出席いただき、経営幹部による業績・戦略等の説明や質疑応答を通じてKOMORIへのさらなる理解を深めていただいています。

また、国内外の投資家様のご要望に応じ、個別ミーティングやスモールミーティング、電話会議等も適宜実施しています。

IR情報発信

国内外のアナリスト・投資家・株主の皆様を対象に、KOMORIの総合的な経営活動を理解していただくため、アニュアルレポートを毎年発行しています。

また、株主の皆様には、業績やトピックスを報告する事業レポートを年2回送付しています。このほかにも、多くの方々にKOMORIをより深く知っていただくため、KOMORIホームページにIR専用サイトをご用意し、決算短信やアニュアルレポート等の各種IR資料を掲載して迅速な情報開示に努めています。

URL http://www.komori.co.jp/hp/ir/index.html

株主還元

KOMORIは、長期的展望に立ち、経営基盤の充実と将来の事業拡大のための内部留保の確保を念頭に置きながら、株主の皆様に対し安定した利益還元を継続的に行うことを最重要課題の一つと認識しています。この方針のもと、配当につきましては、当期純利益（連結）の30%の配当性向を目標としています。

■社員とともに

私たちは、個人の能力や経験を尊重し、社員にとっても「働きがいのある会社」であり続けられるよう、さまざまな取り組みによって人材育成を図っています。これからも社会の期待に応えるべく活動していきます。

Tsukuba技能育成道場

Tsukuba技能育成道場では、KOMORIグループ従業員（海外現地法人・代理店従業員も含む）の組立およびサービス（機械・電気）技能の継続的な向上を目的として、枚葉機・輪転機・デジタル印刷機に関するさまざまな技能トレーニングを実施しています。修了者は道場開設後の半年間で50名を超え（うち8名は海外からの研修者）、順調なすべりだしとなっています。今後も時代の変化に柔軟に対応できる技能向上の育成道場として、技能やサービスのさらなる質向上を通して、お客様の利益向上に貢献できる活動を積極的に行ってまいります。

コンプライアンス教育

コンプライアンス教育は、国内のKOMORIグループの全従業員を対象に2006年より毎年1回開催しており、2014年で9回となりました。内容は業務や個人の行動に関係がある法令を具体的な事例・判例などとともに映像も交え解説しています。また、コンプライアンス意識調査を実施し、意識の変化に対応できるような教育内容となるよう心がけています。

真のコンプライアンスは、企業として、企業人として、KOMORIに信頼を寄せてくれる『相手の期待に応える、相手の立場を大切にする』意識が大切で、“法令を守るだけで充分”ではありません。一人ひとりが、“相手の信頼に応える重要さ”を認識・理解して初めて、真のコンプライアンスが実現され、『お客様からの強い信頼と大きな賞賛をいただき、ひいては社会から愛され、存続を望まれる』という、『顧客感動企業』に向けての重要な基礎の一つを固めることができます。この教育を継続していくことでコンプライアンスがKOMORIの風土の一つになっていければと考えています。

社会とともに

環境授業で印刷機械の仕組みを聞く児童

セーブ・ザ・チルドレン

レスキュートレーニング

国道13号花壇整備（高畠町のみなさんとともに）

第59回ニューイヤー駅伝（つくば市中山地区のみなさんとともに）

■社会とともに

私たちは、常に社会とともに歩むために、社会に対するさまざまな活動を通して、積極的に社会に貢献し、地域や人々とのコミュニケーションを図っています。感動企業を目的として、その活動の幅はますます広がっています。

環境授業

つくばプラントでは小学生を対象に環境授業を毎年実施しており、9回目となる2014年はつくば市立茎崎第三小学校の4年生42人が訪れました。まず、児童を迎えたのは数百メートルにおよぶ長大な工場建屋。その壁面に貼られた太陽光パネルは蛍光灯312本（約10kw）の電気量になると聞き、目を輝かせていました。さらにさまざまな省エネや節電、廃棄物削減など環境対策の設備や装置を見学。続いて、地球温暖化についての授業。地球温暖化の一番の原因は二酸化炭素CO_2であり、日本の排出量は世界で6番目に多いと聞くと、「エアコンをがまんしよう」「テレビをつけっぱなしにしない」など活発な声が上がり、節電の大切さを学んでいました。

工場見学では、全長30mの巨大な輪転機の迫力に圧倒され、枚葉機では4つの色でカラー印刷ができる仕組みを熱心に聞き、紙幣印刷機にも大いに興味を持っていました。

引率の先生は、「当校では、学習でゴミ削減プロジェクトを実施しています。いつも取り組んでいる環境活動が、実は地球レベルで役立っているというこの体験を今後の環境活動に活かしていきたい」と抱負を語られました。

セーブ・ザ・チルドレン活動に協力

2015年2月5日、（株）小森コーポレーションつくばプラント・KGC（小森グラフィックテクノロジーセンター）の「新春特別内覧会」にて印刷サンプルとしてチラシ（A4チラシ両面4種類 各1,000部）を印刷し、提供しました。

レスキュートレーニング

2015年3月18日～20日の3日間、KOMORI大阪支社において、大阪市の特別救助レスキュー隊への産業機械事故救助トレーニングを実施しました。受講者は大東四条畷消防本部18名、大阪市消防局第1隊20名、同第2隊20名の合計58名です。

KOMORIでは1995年の阪神・淡路大震災以降、関西地区を中心に、消防学校や消防局・消防署のレスキュー隊員への救助の講義とトレーニングを毎年続けています。今回のトレーニングは、隊員の交替と部隊再編を踏まえて実施されました。1995年からの累計では、回数50回、受講者数は1,617名に達しています。2014年度はほかにも大阪府消防学校での出張授業を2回行い、合計92名の生徒に救助活動の基本知識を教えています。

「印刷機械に関する教養講座 ―救助活動と安全―」と題するこの教育内容は、印刷機械の基礎知識から人身事故の事例と発生状況、その救助活動の必要知識など多岐にわたります。大阪支社でのトレーニングにおいては、展示されている印刷機械を使ったカバーやローラーを取り外すだけでなく、鉄製ローラーの切断訓練も実施しました。

4年前の東日本大震災を経て、現在も南海トラフ大地震の危険が叫ばれ、救援対策の重要性が高まっています。KOMORIは今後も社会と地域に貢献する活動を継続してまいります。

国道13号花壇整備

地域住民や近隣の企業と一緒になって、山形県高畠町の幹線道路（国道13号線）の花壇整備を実施しました。歩行者やドライバーに安らぎを与えられる空間づくりを目的として、季節折々の花で花壇整備を行っております。

第59回ニューイヤー駅伝

「第59回ニューイヤー駅伝2015」が元日に開催されました。今回は11位と目標におよびませんでしたが、4選手が区間10位以内となり、各選手とも最後まで安定した展開で持てる力を出し切り、チーム全体の底上げが感じられました。目標の8位入賞を目指し、より一層のレベルアップに励みます。毎年ニューイヤー駅伝には、KOMORIつくばプラントがあるつくば市中山地区のみなさんが、元日の朝マイクロバスに乗り、高崎まで応援に駆けつけてくださっています。本年も、つくば市茎崎地区防犯連絡員協議会の松山会長様をはじめ総勢約20名の方々が応援に来られ、スタートからゴール、報告会までKOMORI陸上部と共に1日を過ごしていただきました。

KOMORI
Kando：Beyond Expectations

株式会社 小森コーポレーション
〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋 3-11-1
http://www.komori.com

資料請求は
Tel:03-5608-7857 Fax:03-3624-7603

発行：2015 年 9 月
発行・編集責任：CSR 推進室

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK

UD FONT

この印刷物は、リサイクルに配慮して製本されています。不要になった際、リサイクルに出しましょう。この印刷物は、植物油インクを使用しています。

KANKYO	J	N01	1	2015.9	03K	TA

表紙デザインについて

KOMORI は、新たな価値創造企業として再生しています。２つの線は伝統の印刷技術と最先端のデジタル技術を表し、その融合を通じて社会に新たな価値を提供していく姿をデザイン化しました。